



第232回  
定期演奏会

現代  
に生きる  
私たちの  
音楽

2021

2.15 Mon

豊洲シビックセンター 5階ホール  
19:00→17:30 開演 18:30→17:00 開場



演出 久保田晶子 構成 田野村聡 舞台監督 中島隆  
◀日本音楽集団HP

主催 特定非営利活動法人 日本音楽集団

後援 公益財団法人 日本伝統文化振興財団

助成 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活性化事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会



# 現代に生きる私たちの音楽

## 1 啓蟄の音 - 二十絃箏ソロと四面の箏のための -

ここ数年「旋律と伴奏」という17世紀から19世紀に至る西洋音楽をはじめ様々な民族音楽においてもしばしば見られる伝統的な構造を取って用いつつ、微分音程や精妙なリズム表現によって十分に新しくかつ調和的に響く音楽世界を構築することを試みてきた。邦楽器を用いた初めての作品であるこの〈啓蟄の音〉もその延長線上に位置する。コンチェルトのようにもみえる編成をもつこの作品において、しかし旋律と伴奏部はそれぞれソロとアンサンブルへとその役目が振り分けられる訳ではない。二十絃箏のソロは旋律と伴奏部の二つを自身に併せ持ち、一方十三絃箏四面によるアンサンブルは左右2群に分かれてソロの各パートを補強する。いわばこのアンサンブルは、ソロ・パートを拡大投影するかのような役割を負っているが、その調律はソロに比べて2段階に少しずつずらされており、唸りを生じさせて音に厚みを加える効果も期待されている。倍音組織を基にした同系列の作品とは異なり、この作品においては旋律は3/4音と7/4音の交代による、また伴奏部は5/4音の堆積による2種の非オクターブ旋法によって、両者は1音おきに共通音を有している。楽曲形式は非常にシンプルなものであり、3フレーズからなり非拍節的な旋律(A)を時間と空間を徐々に拡大しながら3回繰り返す前半部と、やはり相似の3フレーズより成る旋律(B)を一転して拍節的なリズムによって3回繰り返すやや短めの後半部、そして冒頭の回想としての簡潔なコーダより成っている。

(作曲者 第198回定期演奏会 初演 プログラムより)

夏田 昌和  
2010年

二十絃箏独奏 1  
三宅 礼子  
箏 2  
伊藤 麻衣子  
箏 3  
石井 香奈  
箏 4  
渡辺 正子  
箏 5  
喜羽 美帆  
指揮  
苫米地 英一

## 2 断章 I - 尺八、箏、三絃のための -

この作品は、1988年の暮れ、現代三曲アンサンブルの委嘱作品として作曲し、同アンサンブルに捧げられた。

慣習的な三曲の響きから、現代に触れる音づくりをすることが、たいへん困難に感じられ、まずこの楽器たちからどれだけ音を異化できるか、という問いかけから始めた。「異化」とは、音本来のエネルギーを見つけるために一度、伝統的な奏法を否定してみ、そのようにして得られた音を、新しいコンテキスト(音の連関)のなかで見つめ直してみることだ。この作品では、発音行為の原型である、たたく、こする、さわる、といった楽器への奏者のかかわり方を検討し、いわば「触感」ともいうべき私たちが失いつつある感覚をもう一度捉えなおしてみた。

作品は非シメトリーに並列されたいくつかのフラグメンテ(断章)が、相互に連続、あるいは非連続する。ひとつひとつの断章の音楽時間は佇立し、西洋近代音楽のいわば首尾一貫した水平的な時間の流れとは異なる、垂直的な時間が生み出せるような音の場所を想定した。(作曲者 CD細川俊夫作品集 音宇宙III『観想の種子』より)

細川 俊夫  
1998年

尺八  
元永 拓  
箏  
久本 桂子  
三味線  
簗田 弘大

## 3 ASPL II

日本では古来、音楽演奏のことを「遊び」と称していた。いつから「演奏」が用いられ「遊び」と区別されたのかは判らないが、例えば英語の「play」やドイツ語の「Spiel」は、今日においても「遊び」と「演奏」両方の意味を持つ。日本古来の楽器を用いる以上、両義性を復刻し、且つ今日的な意味を加味すべきであろう。そこで題名は、日・独・英語それぞれの「遊び」を意味する単語から、頭の二文字(AS/SP/PL)を並べた造語とした。2011年に作曲した《ASPL~正倉院復元楽器による「遊び」》に続き、そのことを踏まえたアイデアによる第2弾として作曲。前作は五線を用いないスコアによって緩やかに互いを模倣し合う内容だった。(そしてそれは2016年、アンサンブル室町のために作曲した《ギュムノパイディア》に引き継がれた。)一方、今作では、まずそれぞれの技を4つずつ、計24種の楽想として披歴。2巡目以後は重なりあい、切迫し、瞬時に転換する楽想の万華鏡となる。全体の仕立ては西洋楽器による《Manic Psychosis III》(2003)等の応用であり、邦楽器での実践はかなりの挑戦的なものになる。(作曲者)

川島 素晴  
委嘱初演

笛  
新保 有生  
箏  
三浦 はな  
箏  
三浦 元則  
尺八  
大賀 悠司  
三味線  
守 啓伊子  
琵琶  
藤高 理恵子





## Profile

## 4 Game of Clouds

邦楽器によるアンサンブルの可能性について考えを巡らせながら見出したいくつかのプランの中から、今回は特に音響的な側面にフォーカスしたものを採ることにした。「ノイズ」成分の豊かな音響特性をもつ楽器を選び、それらの集合体として有機的に推移する音響を作り出す。またその推移も、定量記譜により厳密に計画し時間軸上に固定するのではなく、もっと自由でしなやかな形を保っていてほしいと思った。今回、作曲者自ら指揮をするというプランは当初からあった。それを前提として、指揮者と奏者の一人ひとりが、その場に起こる音響に耳を傾け相互に反応しながら進行していく構造にした。ライブならではの一期一会の有機的な音響現象を、聴衆とともに同じ空間で共有することがこの曲の意図である。コロナ禍でそれが難しい状況下、あえてライブの意義を問い直した結果でもある。また今回、自分にとってほぼ未開拓に近かった邦楽器の世界と向き合った結果、様々な方向性が見えてきて一生探求を続けていきたいと思えるほどの可能性と魅力を感じられたのも個人的には大きな収穫である。(作曲者)

## 5 une place sur la terre

— 地上にひとつの場を — op.136

「地上にひとつの場所」、ここにしか、それもこの地上にしかない。この地上とは即ち、これまで地上で死んだすべての者たちの眠るところ。そこに、そっと、この十数分間だけの、架空のお祭り広場を作りたかった。蜃気楼(ミラージュ)のように。

尺八の息によって場が清められ、巫女鈴の魂ふりによって揺さ振られ、地上での舞いは天に向けられ、笙の響きによって先導されながら、地に眠る死者たちの魂は引き揚げられ、この祭りは終わる。後には何も残らない。その潔さが音楽のいいところだ。

ただ、この祭りを終えた「場所」が、何か穢い聖められた「洞」となる。それが僕の音楽を通じた魂鎮め、即ち鎮魂の方法に他ならない。

(作曲者 第208回定期演奏会 初演 プログラムより)

## 北爪 裕道

委嘱初演

尺八1

田野村 聡

尺八2

大賀 悠司

箏1

桜井 智永

箏2

三宅 礼子

十七絃

久本 桂子

琵琶1

久保田 晶子

琵琶2

藤高 理恵子

打楽器1

山内 利一

打楽器2

多田 恵子

指揮

北爪 裕道

## Game of Clouds

## 北爪 裕道

Hiromichi Kitazume

幼少時よりピアノ、次いで指揮法、コントラバス、作曲理論を学んだ後、東京芸術大学作曲科に入学。並行して桐朋学園大学などで指揮を学ぶ。在学中より様々な作・編曲活動のほか、指揮者としても多くの演奏会に出演、国内外の作曲家の新作初演も多数手がけた。2013年より、文化庁新進芸術家海外研修制度、ロームミュージックファンデーションなどから給費を得て、パリに滞在。パリ国立高等音楽院作曲科第一・第二課程をともに首席で修了。IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。作品は、ソロからオーケストラまでの器楽や声楽、電子音楽など多岐にわたり、世界各地で高い評価を受けている。また独自の楽器制作なども多く手がけるほか、録音・音響技術者としても活動を拡げている。現在、東京芸術大学および桐朋学園大学非常勤講師。

## ASPL II

## 川島 素晴

Motoharu Kawashima

東京芸術大学及び同大学院にて作曲を近藤謙、松下功に師事。1992年秋吉台国際作曲賞、1996年ダラムシユタット・クラーク・ニヒシユタイン音楽賞、1997年芥川作曲賞、2009年中島健蔵音楽賞、2017年一柳慧コンテンポラリー賞等を受賞。テレビ番組「タモリ倶楽部」、「題名のない音楽会」等に解説者として登場。「サントリイホールサマーフェスティバル2020」内にて、サントリイ芸術財団委嘱による管弦楽作品を自ら指揮をして初演。「アンサンブル東風」指揮メンバー等、様々な演奏活動も行う。いずみシンフォニエッタ大阪プログラムアドバイザー。(一社)日本作曲家協議会副会長。国立音楽大学及び同大学院准教授。尚美学園大学、及び東京音楽大学講師。

## 権代 敦彦

2013年  
2020年改訂

龍笛

あかる 潤

篠笛

芝 有維

能管

竹井 誠

笙

三浦 はな

尺八A

原 郷 隆

尺八B

川 俣 夜 山

尺八C

饗 庭 凱 山

三味線

長 井 麻 江

琵琶

久保田 晶子

箏

久 東 寿 子

二十絃A

石 井 香 奈

二十絃B

森 真 理 子

十七絃

久 本 桂 子

打楽器A

盧 慶 順

打楽器B

多 田 恵 子

打楽器C

山 内 利 一

指揮

苫 米 地 英 一

## 日本音楽集団

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・胡弓・笛・小鼓・太鼓などの打楽器、笙・竈門などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。

現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇などさまざまな分野で演奏活動を行っています。海外ではヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア等、31カ国151都市で公演を実施。アイザック・スタイン、ヨーヨー・マやゲヴァントハウスのオーケストラ、ニュー・ヨーク・フィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。

文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミール・マルタン音楽賞、モービル音楽賞など受賞履歴多数。

# Member

穂積大志	二代目 三山眞正	長井麻江	杵家七三	三味線	渡辺淳	米澤浩	元永拓	三橋貴風	湖上ラファエル広志	藤崎重康	原郷隆	田野村聡	阪口夕山	川俣夜山☆	大賀悠司	饗庭凱山☆	尺八	三浦元則	西原祐二	篠築	三浦はな	笙	竹井誠	孫瀟夢	新保有生	芝有維	遠藤悠紀※	あかる潤	笛	
盧慶順	山内利一	多田恵子	島村聖香※	尾崎太一	白杵美智代	打楽器	喜羽美帆	山田明美	森真理子	三宅礼子	丸岡映美	久本桂子	城ヶ崎美保	島崎春美※	佐藤里美	桜井智永	熊沢栄利子	久東寿子	岡山亮子	伊藤麻衣子	石井香奈	箏	藤高理恵子	田原順子	久保田晶子	山崎千鶴子	守啓伊子	箕田司郎	箕田弘大	三味線
長澤勝俊	永久名誉団員	中山美穂子	事務局	副代表	米澤浩	代表	尾崎太一	名譽代表	田村拓男	中島隆	楽器・舞台	大西愛子※	アートマネジメント	篠田大介※	高橋久美子	福嶋頼秀	相澤洋正	秋岸寛久	川崎絵都夫※	篠田大介※	高橋久美子	福嶋頼秀	作曲	田中元樹	田村拓男	苦米地英一	稲田康	指揮		

☆印は新入団員  
※印は休職中  
2021年1月現在

## 賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したことを機に、賛助会員を募集しています。  
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

▼お申し込み



年会費 (一口以上)  
個人 ... 10,000円  
法人 ... 30,000円  
年間3回の定期演奏会への招待状を毎回ご送付

## 賛助会員

### 法人会員

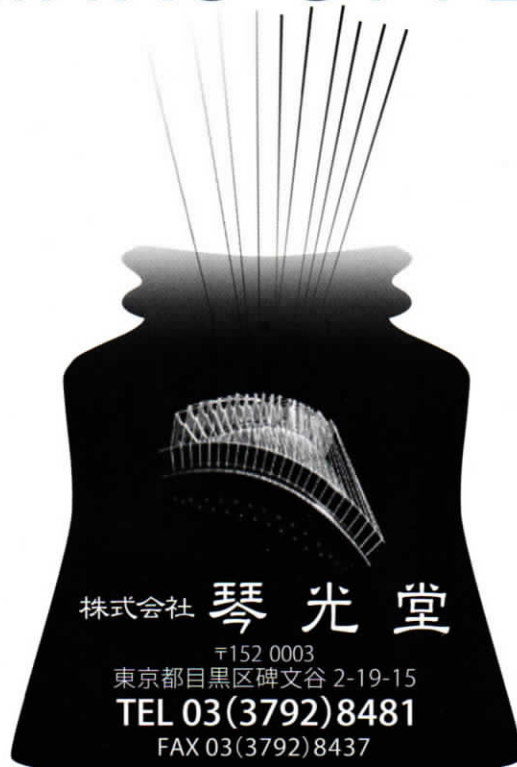
株式会社青和トラフィック代表取締役 青木茂  
株式会社青和運輸 代表取締役 青木茂  
日凸運送株式会社  
青和観光株式会社 代表取締役 青木茂  
神戸レコードクラブ/宅音便 (有限会社 文)

### 個人会員

山本 福八  
\*  
池田 玖莉子  
伊藤 三好  
伊藤 憲夫  
柿崎 やよい  
佐藤 玲子  
東谷 仁  
藤舎 正生  
友杉 毅  
奈良 英子  
西川 浩平  
堀 保文  
三宅 一徳  
元永 明希  
元永 美代子  
森 繁美  
森 博明

他2名 個人会員計19名  
2021年1月現在

# KINKO STYLE



株式会社 琴光堂

〒152 0003  
東京都目黒区碑文谷 2-19-15  
TEL 03(3792)8481  
FAX 03(3792)8437